

スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録

			記録者	スポーツ推進課 主事 林 浩史		
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員
件 名	令和6年度第1回スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録					
日 時	令和6年11月15日（金）午前9時45分～午前12時00分					
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室					
主 催 者	龍ヶ崎市長 萩原 勇					
出 席 者	[委員] 田畑亨会長、橘川栄作委員、望月進委員、木村忠夫委員、櫻井円香委員、浅野美玲委員、渡部桂太委員、湯原加那子委員、後藤泉委員 欠席委員…松橋崇史委員、塚本裕委員、荒井久仁夫委員					
	[市] 木村副市長、足立健康スポーツ部長、昇スポーツ推進課長、木村課長補佐、記録者 [令和6年度スポーツライミングのまち龍ヶ崎推進支援業務委託受託事業者] デロイトトーマツコンサルティング合同会社					
傍聴人の数	0名					
会議の内容	議 事 (1) 会長及び副会長の選出について (2) スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会について (3) スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定について【諮問】 (4) スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）について					
情報公開	公 開	非公開（一部非公開を含む）				
	部分公開 非 公 開	とする理由 公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）			年 月 日	
発言の内容（要旨）						
事務局	〔開会〕 定刻となりましたので、ただいまより、令和6年度第1回スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会を開会いたします。 本日の傍聴人はおりませんので、ご報告させていただきます。会議に先立ちまして、主催者を代表し、萩原市長からご挨拶申し上げますところですが、公務の都合により、本日欠席となりますことをご了承願います。 代わりまして、木村 博貴副市長よりご挨拶を申し上げます。					
木村副市長	本日はお忙しい中、令和6年度第1回スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。本市にとって、スポーツライミングは、競技の第一人者であり、オリンピックメダリストの野口啓代氏、2大会連続でオリンピックに出場した檜崎智亜選手が身近に存在するなど、恵まれた環境を有していると考えております。また、スポーツライミングは、アーバンスポーツと呼ばれ、若者文化に関連が深く、若者世代を中心に人気が拡大しているスポーツです。スポーツライミングのまち龍ヶ崎は、こういった特徴を持つ、スポーツライミングをまちづくりの資源の1つとして捉え、その優位性や独自性を発揮し、龍ヶ崎市ならではの取組みを展開する、そして、若者世代を中心とした人の呼び込み、賑わいの創出はもとより、教育や産業など、多方面の施策と連動させることにより、まちに活気を生み、選ばれるまちに発展していく、そういった思いを持って進める事業であります。「スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審					

	<p>議会」は、本事業の指針となる基本構想の策定について、ご審議いただくものでございます。「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向け、皆様のお力をお借りしたいと考えております。それぞれの立場から、スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想に対してご意見をいただけますようお願い申し上げます。開会にあたってのあいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>木村副市長ありがとうございます。続きまして、本日の会議が、初めての開催となりますので、委員の紹介をさせていただきます。</p> <p>〈委員紹介〉</p> <p>以上、委嘱しました委員12名でございます。よろしくお願いたします。なお、委嘱状につきましては、本日の次第とあわせて、机の上に置かせていただいております。</p> <p>次に、審議会の事務局を務めます市の職員を紹介いたします。</p> <p>〈事務局紹介〉</p> <p>次に、基本構想策定支援をいただいている、デロイトトーマツコンサルティング合同会社の担当の方々となります。ご紹介お願いたします。</p>
事務局	<p>続きまして、会議の開催要件を報告いたします。</p> <p>当審議会条例第6条第2項の規定により、過半数の出席がなければ会議を開くことができないとなっております。本日は、委員12名のうち、9名に出席いただいております。定数に達していることをご報告いたします。</p> <p>次に、委員の皆様にはマイクの使い方について、ご説明いたします。発言の際は、挙手のうえ、ボタンを押してからマイクを通してご発言をお願いいたします。なお、マイクは、お口元に、近づけなくても使用できます。よろしくお願いたします。それでは、会議に入っております。当審議会条例第5条第2項により、会長が議長を務めることとなっておりますが、本日は最初の会議であり、会長、副会長が選出されておられません。そのため、最初の議題であります、会長・副会長の選出は、木村副市長に進行をお願いいたします。</p>
木村副市長	<p>それでは、会長・副会長の選出まで、議題を進行させていただきます。なお、議題に入る前に、本審議会の会議録の作成に関してですが、会議録は会議の公開と同様、当市の条例により一般に公開することとなっております。会議録を作成するにあたって、会議録には、原則、発言者の氏名を記載するようになっておりますので、委員の皆様には、あらかじめご了承くださいと思います。</p> <p>それでは、議題1「会長及び副会長の選出について」です。選出については、当審議会条例第5条第1項で、委員の互選によるものとなっております。なお、互選の方法は推薦による方法を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>〈委員から意義なしの発声〉</p>
木村副市長	<p>それでは、会長について、どなたか推薦される委員は、いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>〈委員から事務局一任の発声〉</p>
木村副市長	<p>事務局一任というご発言がありましたので、事務局で案があれば発表してください。</p>
事務局	<p>まず、会長は、流通経済大学の田畑委員にお願いしたいと思います。田畑委員は、流通経済大学でスポーツ行政学の教鞭を執られております。また、当市のスポーツ推進に取り組むための指針にもなり、また、本事業とも関連しております、「龍ヶ崎市スポーツ推進計画」の審議会の委員を務めていただいております。策定や進行管理に対して助言、ご指導をいただいております。</p> <p>次に、副会長には、龍ヶ崎市学校長会から大宮小学校校長の木村委員にお願いしたいと思います。木村委員は、長く教育分野でご活躍され、本事業の実現に向け、関連が深い教育関連におけるエキスパートでございます。</p> <p>以上が事務局案になります。</p>
木村副市長	<p>ただいま事務局から発表がありましたが、事務局案のとおり、会長に流通経済大学の田畑委員、副会長に龍ヶ崎市学校長会 大宮小学校校長の木村委員を選任することよろしいでしょうか。</p>

	〈委員から異議なしの発声〉
木村副市長	<p>それでは、田畑委員には会長、木村委員には副会長をお引き受けいただけますでしょうか。</p> <p>〈両委員承諾〉</p> <p>それでは、異議もなく、お二方からもご承諾をいただきましたので、会長に田畑委員、副会長に木村委員を選任することで決定とさせていただきます。田畑委員、木村委員どうぞよろしくお願いいたします。一旦、進行を事務局へお返しします。</p>
事務局	木村副市長ありがとうございました。田畑会長、会長席へご移動お願いいたします。それでは、田畑会長に就任のご挨拶をいただきたいと存じます。
田畑会長	<p>改めましておはようございます。ご紹介いただきました、流通経済大学の田畑でございます。ただいま、会長に選任いただきました、よろしくお願いいたします。私は、スポーツ推進計画策定審議会の委員やスポーツ推進計画の策定に携わってきました。また、東京オリンピックの際は、キャンプという形で尽力してきました。こういったスポーツクライミングの審議会の会長ということで重責を賜りますけれども、全力でその職責を全うしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。また、副会長におかれましても木村先生がなられるということで、教育界での忌憚のないご意見をいただきますとともに、委員の皆様におかれましては、その立場におかれまして、専門的な知識を存分に発揮していただきながら、有意義な会議にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	ありがとうございました。それでは、ここから議事の進行は、田畑会長にお願いします。
田畑会長	<p>それでは議題の方に進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>議題に入る前ですが、本日の会議の議事録署名人の選出をさせていただきたいと思っております。署名人につきましては、今回の審議会の議事録を委員代表として確認していただき、署名をいただくものであります。本日の会議の議事録署名につきましては、望月委員と木村委員にお願いしたいというふうに思います。</p> <p>2名の方におかれましては、議事録がまとまり次第内容をご確認のうえご署名の方よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議題について進めて参ります。</p> <p>議題2のスポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想の策定審議会についてです。議題となっておりますのが当審議会についての確認となると思っておりますので事務局の方から説明の方よろしくお願いいたします。</p>
事務局	〈事務局から説明〉
田畑会長	<p>ただいま事務局より説明がありましたけれども皆さんの方で、ご意見やご質問等あれば、挙手にてご発言の方よろしくお願いいたします。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>特にないようでしたら、議題の方を次に進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>続きまして議事の3番目に移ります。スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定についての諮問になります。事務局の方からよろしくお願いいたします。</p>
事務局	先ほど説明させていただきました、審議会条例第2条の規定により、木村副市長より田畑会長へ諮問書を提出させていただきます。
木村副市長	諮問書を読み上げ田畑会長に渡す。
事務局	ここで、木村副市長におかれましては、退席させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは田畑会長引き続きお願いいたします。
田畑会長	続きまして次の議事に入らせていただきます。議題4のスポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）についてとなります。事務局の方からご説明の方よろしくお願いいたします。
事務局	〈事務局説明〉
田畑会長	ただいま事務局より説明いただきましたけれども、このスライドでも出ています通り、ここら辺のテーマっていうのをいかに実現していくかっていうところが、こ

	<p>のスポーツクライミングのまち龍ヶ崎に繋がっていくのかなというようにところで聞いてまいりました。そうしましたら委員の皆様から今のご説明に対しまして、ご意見ご質問等ありましたら頂戴したいというふうに思います。</p> <p>望月委員お願いします。</p>
望月委員	<p>自分クライミングあんまりやったことなくて申し訳ないのですが、デトロイトトーマツさんの会社でどのようなことをやられているか少し簡単でいいのでご説明いただけるとありがたいのですが、お願いします。</p>
受託事業者	<p>弊社では、このスポーツクライミングの基本構想の策定の支援の方をさせていただいております。基本構想と言っても様々あると思うのですが、今後3ヵ年かけて、この龍ヶ崎市でしっかりとスポーツクライミングが根つき、それらをきっかけに地域が良くなっていくというところの取り組みに向けて、調査と仮説を立案させていただいております。また、今後、審議会後ワークショップの方を実施させていただきまして、関連するステークホルダーの皆様が集まっていただいて、どんなスポーツクライミングのまちを目指していくのかというところを皆さんから意見をすり合わせ、アクションに反映させていくということをさせていただき、そういったところを支援させていただいております。その他、人材やこの事業を推進していくための財源確保、そういったところに向けたご支援等もさせていただき予定でございます。</p>
田畑会長	<p>望月委員よろしいでしょうか。</p>
望月委員	<p>はい。ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
橘川委員	<p>聞きたいのですが、これスポーツクライミングって体育協会とかに入っているのですか。全国組織だと思うが、県の方で、体協、もしくははですね、高体連とか中体連とかそういう組織の中に、スポーツクライミングというのが位置付けされているのかをちょっと知りたいのですけど。</p>
浅野委員	<p>まず、国体絡みでいうと、国体にスポーツクライミングという種目がありますので、茨城県山岳連盟からも選手を出しています。</p> <p>高体連、中体連では、高体連の方で茨城県高体連の登山専門部というのがございまして、そちらで、高校の山岳部の中でクライミングをやっている生徒がいる学校が、全国高等学校選抜クライミング選手権に毎年選手を出しているような状況です。</p> <p>名称として、登山とか山岳っていうのと、その中にクライミングが入っているような形なので、茨城県山岳連盟でまだスポーツクライミングっていう名前がついていないのですが、国の方では、日本山岳スポーツクライミング協会っていう大本の組織があって、そこに茨城県山岳連盟も入っている形です。</p>
橘川委員	<p>ハードとソフトとどういうイベントをやっていくかだけだと思う。つまり、誰がハードを作って、どういうその組織を作りながら人を育てていって、一般化していくかを明確にしないと、やりづらいと思う。小学校で勝手にやってくださいってそれはできない。中学校・高校も同じですよ。そういう組織的なものの立ち上げをきちんとやって、普通のスポーツと同じような取り扱いができるように、スポーツクライミングって名前が前に出るような形の組織作りというのを1つ1つやっていかなきゃいけないなど前から感じる。それと、ハード面が公設なのか、民設なのかはともかくとして、どういう立派な施設を作り、それをどう人を集めていくかだから、難しいことじゃないと思う。だから、いつまでに何をどういうふうにしていくかってことが、この審議会でも話ができるといいなと思って、その中でやっぱり山岳連盟の皆さんにお願いしたいのは組織ですよ。中体連高体連、それから、茨城県の体協でスポーツクライミングがちゃんと認知されていくような、山岳部の一部として出るとかじゃなくて、そういうものがないとやっぱり何となく続かないかなという感じ。それができると、学校にも部活動として、もっと本格的なスポーツクライミングができてくると思います。</p> <p>もう1つ大事なのは、いつまでに何をやるかです。てんこ盛りで、いつまでに何をやるかが明確じゃないと、何となくじあできるわけがないですよ。明確な目的と目標、時間的なものも含めてやらないと、なかなかてんこ盛りではできない。また、競合するいろんな町があるみたいですけど、それは競合するのではなくて、一</p>

	<p>緒にやれるようにしていった方が絶対いい。今、アーバンスポーツ系の施設がいろんなところでできていて、みんなガラガラですよ。都内ですよ。東京は人がいますが、地方でそういうもの作ったとしても、えらい苦労している。誰が運営するのかによっても、公設民営でやっていくのが一番楽なのでしょうけど。公設ができるかって言ったら大きい組織、建物はできないですよ。ポイントは、どんなハードを作っていくかってことをいつまでに明確にして、その組織的なものも含めたソフトをどういうふうにやっていくか、それに伴って、イベント系のものをどういうふうに取り込むか。その柱ができれば、いろいろ書いてありますけどそれは何でもできると思います。だからそこは、うまく考えてやらないといけない。あくまでもハード、ソフト、イベント系も含めて、きっちりこの審議会で目標をいつまでにこうやっていくかをバシッと決めることが個人的にはいいなと思う。やっぱり、まずは組織を作りたいなっていうのがあります。中体連、高体連、体協というのもそうだし、大学生もそうだし、そういうものが一般的になってくるともっと組織として良くなるし、プラス、ハードの面でも、企業が乗りやすくなってくるかもしれないですよ。だからそこら辺も、この組織で話し合えたらいいなと思ってますし、龍ヶ崎はなんと言っても野口さんと榎崎さんの2人、スーパークライマーがいるので、それを使わない手はないと思う。それから東京都と近接性っていうのは、スポーツクライミングのまちづくりという意味で言うと非常にアドバンテージがあると思います。ダラダラやって結局何もやらずに終わっちゃうってパターンが大体まちづくりで多い。いつまでに龍ヶ崎でこれを作って、こういう組織を作ってというある程度タイムスケジュールがあるといいなっていうのは、個人的には思います。ちょっと長くなりましたけども以上です。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>高体連中体連、スポーツ協会のところはちょっと一旦置いてもらってもいいですか。私の話をちょっとしたいのですが。11年前に、大子町で地域おこし協力隊として、1年間、クライミングの推進の活動を行いました。10年前から、茨城県の教員採用試験を受けて体育の教員として高校で5年間水戸工業高校に勤務した後、現在、銚田第二高校という2019年の茨城国体の開催地である銚田市の学校で5年間勤務しております。銚田市に異動になった経緯としては、私の希望もありまして、市長からも、銚田第二高校で部活動を作ってくれというふうに言われましたが、現状作れていません。というのは、今、部活動縮小の方向になっていて、私も体育の教員で、バスケットボール部、陸上部、剣道部、そういった顧問をやりながら、競技団体の方では、大会の運営や、全国規模のコースの強化の方にも携わっているのですが、そういった活動も個人的に行っているのですが、普及とそのイベントは全く別で切り離して考えた方がいいなと思っていて。銚田市では10年前から、小学校で壁を建てて、クライミングの教室をやっている。年に1回大きい壁で体験活動も茨城県山岳連盟がスタッフを出してやっている。ただ、10年経っても全国大会に行くような選手は現れていません。まず、子供がいない。各スポーツ、取り合いですよね。そんな中、龍ヶ崎市で何ができるのかっていうのを、この6本も柱があったらちょっと難しいので、もっと絞って、トップアスリートに絞ってやるというのが、私が聞いていた中で、一番現実的であるのかなと思います。</p>
<p>橘川委員</p>	<p>僕も元高校の教員なのでよくわかりますけど、スポーツはできるだけ外部講師にやらしてもらおうということだと、スポーツクライミングは、もってこいのジャンルだと思うのですよね。龍ヶ崎は、その点外部講師を呼びやすいと思うのですけどね。ですと、ベースにあるものがなくて、突然トップアスリートだけになっちゃうと、おそらく、町の中で受け入れられない。要するに、スポーツクライミングのまちづくりは、スポーツクライミングでいろんな人が集まってきて町を活性化させましょうというもの。それで、いろんな経済的な効果も含めてできればいいなことだと思う。ベースがなくてやっていくのは、なかなかしんどいと思っている。トップアスリートが来て、大きな大会やって、それは龍ヶ崎じゃなくてもできるわけで、龍ヶ崎がなぜスポーツクライミングのまちなのかを組織として、ボトムアップしていけますっていうのがないと広がりがなくなると思います。</p> <p>茨城県全体で云々というよりも、龍ヶ崎で、もしもスポーツクライミングのまちづくりをやるのであれば、そういうものをきちんと立ち上げて、指導者もちゃ</p>

	<p>んといるので、やっていった方がいいと思います。ただ単純にスポーツクライミングで龍ヶ崎が元気になることや、メジャーになればいいなら簡単ですよ。ただイベントやればいいんだから。だけど、さっき言ったハードの面とソフト面と、それが両方上手く立ち入っていかないと、まちづくりとしてのクライミングを活用することは、難しいかなと思います。これは前提として、龍ヶ崎ならできると言うから言っているのです。龍ヶ崎だからこそできる、こういうスポーツクライミングをきっかけに、まちづくりができると思っているので、あれもこれもやるのではなく、スポーツクライミングをどうするかをビシッと決めるべき。教育とか、産業とか、二の次でいいと思う。だから我々は何を話すかって言ったら、ハードはどうするか。場所はどこに。組織として小学校、中学校、高校でどういう組織を作って、県内でも、龍ヶ崎は全部スポーツクライミング部がありますよと。そして、外部指導者も入るようにできたらいいなって個人的に思います。トップアスリートができない理由ってそこだと思う。やはり、みんなで楽しくやってみようって言ったら、いつまでたってもトップアスリートできないと思う。すごくシビアな話ですけど、そこら辺も考えてやっていけばいいなと思っています。</p> <p>以上です。</p>
田畑会長	<p>今、橘川委員からもありましたように、組織の話が1つあったかと思いますが、やはりトレンドとしては、部活動をできるだけ地域に持っていくってところの流れが進んでいるところで、まさにスポーツクライミングについては、まず地域での選手の育成というところが可能になってくるのかなと思っている。</p> <p>渡部委員は、プロクライマーという形で、お越しになっていますけど、今のお話を聞くなかで何かご意見がありましたらよろしくをお願いします。</p>
渡部委員	<p>皆さんがしゃべっていて、いろいろ思うところがありますが、自分は、競技側の経験がメインになるとは思っていますが、現状自分もプロ10年弱経験していて、もともと三重県出身で、コロナもあって移住して、今、龍ヶ崎に拠点を動かしているという状況です。競技者支援や環境整備の部分に、ある意味モデルケースのような形になっていると思いますが、なぜ龍ヶ崎に引っ越してきたのかっていうのは、野口啓代氏や檜崎智亜選手がいるからです。立地で言えば、東京に出やすいっていうのももちろんプラスではありますし、例えば成田空港が近いとか、要は国際的にも移動するということを考えても、家賃も安くて、都内に出られます。多分それは、クライミングじゃなくて、ベッドタウン的に人口が増えていると思う。競技者である以上、競技の練習場所が結局必要なので、ハード面っていう意味では、現在、私有地で練習させてもらっている。逆に、そこは個人的な繋がりががあるので、移住して、練習できているというのが現状です。全国的には、資料にもあった通り、公共施設ですよ。国体を機に建てた施設は、20年以上前から全国中にあるが、ご存じの通り、すべての施設が潤っているわけではなくて、ほぼ、廃墟と化しているケースが多いです。また、オリンピックを機に、大手の電力会社などが、その施設を数億円とかで買い取って、改修してというのは、正直そこはかなりハードルが高いですし、その規模を新規で建てるっていうのは、この3年の中で奇跡が起こらない限りないのかなっていうのと、誰もが望むような形にできるかちょっとあやしいと思っています。確かに、ゴールを決めるっていうのは非常に大事だと思いますが、ゴールを決める上では、どこが目標なのかはかなり大事だと思うので、現状その6本の柱っていう意味で言うと、それぞれに、目標を設定しないとイケないと思います。競技側はすごく詳しいので、大会誘致、競技者支援、環境については、的確なことが言えるかなと思う。これもほぼプロに対しての話だと思うので、地元で受け入れられるような内容っていうのは特産品や学校体験会、また市内に向けたPR、ちょっとそこが弱いかなと思っています。正直、砂漠になんか緑を生やすぐらいの気持ちじゃないと、クライミングがまず受け入れられるのかっていうところもあるし、指導者不足が否めないです。小・中学生の子どものクライミング大会は、保護者の方が、大会の手伝いをしており、ほぼボランティアに頼っている状況です。とにかく認知度を上げるのもそうですし、体験会とか、クライミングをやっていくぞっていうのもっとアピールしていかないと、人手が足りない状況なので、そこから話が進むのかなと僕は思っています。</p>

	<p>ちょっといろいろ言いたいことがいっぱいあって、難しいが、場所は足りてない。プロに対しても、体験する場所も現状市内には足りてない。ただ逆に言うと、利便性があるので、市内に頼る必要がないっていう言い方もできると思います。要は都内に出ちゃえばクライミングジムがすぐにあってとか、隣町に出ちゃえば登るジムがあるという状況なので、市内で完結しようっていうのがそもそも間違いなのかなと思っています。市内に作るべきものは作り、体験イベントをし、周りにあるものも連携してやっていくっていうのが、現実的だと思っているので、その辺どうでしょうか。</p>
田畑会長	<p>今話の中で、施設っていうところが出てきたかと思うのですが、こちらちょっと事務局の方に伺いたい部分あります。この施設の整備について、今後どのように考えているのかっていうところ。今、渡部委員のところは、ハード作っても結局それが廃墟化してしまって、無駄なものになってしまうのではないかと。それを補うのがイベントだと思いますが、その施設計画についてどのようにお考えか教えていただきたいと思っています。</p>
事務局	<p>今のところ、施設整備というところで大規模な施設をここまで建てるとか、そういった計画はないのが現状です。</p> <p>先ほどからちょっと厳しい意見とかが出てきていると思いますが、これすべて急にできるかと言われたら、やはりこの中でも難しい柱がたくさんございますので、優先順位をつけてやっていかななくてはいけないと思います。</p> <p>まず、この柱の中で、優先的に取り組むのは、大会の誘致、開催です。こういったところを活用しながら、市全体或いは、市外の企業などの関心を高めていきたいというふうに考えております。</p> <p>環境整備につきまして大規模施設だけが施設ではなくて、民間ジムから、クライミングにちょっと触れるようなところとか、そういったものも環境の整備に含まれます。</p> <p>学校でも簡単にちょっと手軽に触れるような極端に言うと遊具のようなものであったり、そういったものにまず取り組みながら、機運を高めて、そこで野口さんであったり檜崎さんという存在の優位性を活かしながら、大会を続けて開催していけば、今のところ大会の開催には特設会場しかありませんが、そういった毎年毎年の大会開催が、ブランディングにつながり、甲子園のようになれば、必然的に施設というような話になってくることも考えられます。</p> <p>今、委員から期限を切るといような話もございましたが、大規模な施設をここまで作るというのは現状ないと、そういう状況でございます。</p>
田畑会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ハードは、とりあえずないという中でこのまちづくりというところを進めていけないといけないと思っていますが、委員の皆様はどうお考えですか。</p>
橘川委員	<p>ちょっと確認ですけど、これ3年間で何か基本構想を作るということですか。それとも3年間で何かやるのですか。さっき3年間って聞いてびっくりしたのですが。</p>
事務局	<p>本事業の財源として、デジタル田園都市国家構想交付金という補助制度の採択が6年度から8年度で予定されていまして、補助の期間が3年間になるので、それに合わせ、3年間で何をやるかっていうのを決めていき、長期的な視点も入れながら、基本構想を作っていくようになります。</p>
橘川委員	<p>デジタル田園都市国家構想交付金だったらハード作れるんじゃないですか。</p>
事務局	<p>このデジタル田園都市国家構想交付金は、ハードを作れるメニューではないタイプのものです。</p> <p>今、橘川委員の方からございました補助制度でございますが、こちら6、7、8年度と、今確定しているのは今年度だけになります。申請しています。事業費ベースで、本年度2,000万、7年度8年度と4,000万を申請していますが、これハード整備をするための補助にはならないというものです。こちらは、地方創生を後押しするような補助制度で、東京の過度の人口集中の是正や、仕事を作る、雇用を確保する、まちのにぎわいを作るなど地方創生の取組、そういったものを後押しするのが、この国庫補助の狙いになります。補助期間として認められているのが、3年</p>

	<p>間、3年で一旦切れますので、そこで、例えばですけども、建設事業をやりたいとなれば、また違うメニューを探っていくことや、民間資金を調達し、活用するなど、そういったことも考えなくてはいけない。市の方の財政も厳しいものがございしますので、資金調達、財源確保などがセットになってないと事業の継続が難しいと考える。また、収益性が、施設建設においては非常に重要になりますので、そこら辺も睨みながら建設については考えなくちゃいけないというところでございます。</p>
橘川委員	<p>先ほど、渡部さんがおっしゃったように、指導者が少ないので、皆さんに来てもらって、ボトムアップも大事だけど、上から、要するに、大学生とか、それから、それ前後の人ですごく立派な指導者をいっぱい作っていくための補助金にはならないのでしょうか。</p>
事務局	<p>そういった取り組みをやるとすれば、競技者支援のメニューの中にそのようなアクションをぶら下げる、そういうところで、1人の競技者と、競技者を支援するなら指導者もセットだというようなところを踏まえていかないといけないというような考えになるかなと思います。</p>
橘川委員	<p>面白そうな感じがしますね。どっちが先かという議論になるが、ハードは、ちょっと先の話になると思う。でも、先ほどおっしゃっていたように、中・高体連に指導者がいないのであれば、徹底的に、龍ヶ崎は指導者の研修できるまちなしてしまえば、意外とそれは出発点としては面白いかもしれないですね。</p>
渡部委員	<p>その指導者が足りないっていう、その具体的な意味合いとしては、プロクライマーを指導する指導者もいなければ、学生であったり、社会人であったり、一般施設の中でも、その指導するに当たる立場の人間が足りていません。それは能力的な問題です。能力的な問題は、正直、時間がかかります。例えば、暗記すればできるわけじゃないですよ。運動すべてそうだと思いますが、なんでこの人が登れてないのかとか、何を最初に教えればいいのかということが、出発点としてわかりづらいスポーツだと思っています。また、「登る」と「スポーツクライミング」の違いを説明しなさいって言われたら、多分無理だと思うのですよ。その違いは、やはりそのルールがあって、時間制限であったり、トライする回数であったり、高さの制限であったり、縛られた中で競技をするっていうことがスポーツクライミングですよ。自然の中で、岩を登ることや、山を登るのも、クライミングではあります。ただ何を登るかっていう定義次第で、クライミングが変わってしまうので、まずスポーツクライミングっていう、テレビであったりメディアであったり、野口さんはじめ有名なクライマーだったりオリンピックで見るワードの認知度を上げないと、多分これ破綻すると僕は思っています。皆さんが、クライミングってこうだよなって思うものが、多分、1つじゃないと思う。また、ある程度クライミング業界を知ってしまっていることで、何かちょっと夢物語感が強いなと思ってしまっている。とにかくその認知度を早く上げないといけないという事実と、その仲間も必要ですし、何から取り掛かりを作るかっていうのは、現状のその戦力を考えても、資金的な部分と人材も含め、イベントをするしかないのかなと思っています。その体験会をする場所が、たつのこアリーナ1ヶ所だとキャパシティもそもそも少ないですし、野口啓代さんを毎月のように市内イベントに呼ぶと、2,000万円なんてすぐ飛んでいきます。大会をやる以上、仮設でも建てないといけないので、おおよそ、予算の半分ぐらいなくなると思っています。そのため、そもそも外部の資本に頼らざるをえない計画なのかなと思っています。</p>
事務局	<p>大規模大会の誘致、イベント、この事業を動かしていく全般的な話ですけども、官民連携っていうのが重要になってくる場所があって、さらに市内の事業者だけでは、到底できないので、市外のクライミングを支援していただいているような企業や、関心を寄せていただいている企業、或いは龍ヶ崎市に関心のある企業からの協力を得ながら、進めていく必要があります。3年間は補助があるかもしれないですけども、4年、5年と続けていくことを考えると、この3年間で一定の流れを作って、官民連携の体制構築、牽引してくれるような企業の発掘、イベントであれば人材、ずっと市役所が予算を使ってイベントを開催するというのも、難しい流れになってくる可能性もあるので、そこら辺の一端を担っていただけるような企業で</p>

	<p>あったり人材をセットで考えていかななくてはいけないと考えています。</p> <p>その他は、教育と学習のところで普及活動です。先ほど渡部委員からも話がありましたが、ルールを知っている人は、なかなかいないという現実も当然あるかと思えます。そこで理解醸成というところで授業を活用する。小さい子への体験会などを通して、若年層の時からそのスポーツクライミングに触れてもらうというのも、今回の事業を盛り上げていく部分であると考えます。また、子どもに夢を持ってもらうというところです。市には野口さんと檜崎さんというトップクライマー、世界を知るような人がいますので、そういったところにご協力をいただきながら夢を持っていただくような取り組みをするというところを考えて事業を進めていきたいと考えているところです。</p>
橘川委員	<p>渡部さんには大変言いづらいですが、スポーツクライミングなんかわかっていないだろうっていう態度はね、あんま良くないですよ。ここはそういう場じゃなくて、龍ヶ崎としてどうやっていくか、いろんなアイデアを出す場所なので、それをプロの目から見て、そんなのは甘いよって言われてしまうとまちづくりという視点でできなくなります。そこは渡部さんがいるから助かる部分が我々あるわけですから、明確に、そこはね注意しないとイケないなと思う。なぜかという、今事務局から出たように、事務局としては、トップクライマーを作るというよりは、それなりの人たちが楽しめるような、市民が理解できるようなことやってきたわけですよ。それをやった上で、話を進めていかないとやっぱり、そもそもそうならできないですよ、これ。どうせ無理だぜってなっちゃうから、そうじゃなくて、今、事務局が言ったようなことを、我々やっていかないとイケない気がします。でするので、さっき言ったハードとソフトといろんなイベントもの、大体話は3つに分けられるけど、それを3年間の中でどれをやっていくか。その先は、さっき渡部さんがおっしゃったようなことをやっていきたいなと思います。余計な話で恐縮ですけど、やっぱりプロがいるのはすごく助かりますよ。ここで、彼が言っていることはすごく最もなこと、だからその中で市として何をやっていくかっていうところまで落とし込まないと、ちょっとしんどいなって思います。</p>
田畑会長	<p>野口さんもいらっしゃいますし、渡部さんというようなプロクライマーもいるというところが、このスポーツクライミングのまち龍ヶ崎の出発点だと思いますので、こういった資源というのを活用し、ご意見をいただきながら、より良いまちにしていくというのは、方向性としては大事だと思います。</p> <p>こういった話の中で普及というところであったり、体験会というところのお話ありましたが、やはり、普及の対象者としては、小学校であったりとか中学校ということが非常に大事になってくるかと思いますが、本日大宮小学校の校長先生、木村先生がいらっしゃいます。こういった話を聞く中で、どんな意見を持たれたかというところをちょっとお伺いしたいなと思います。</p>
木村委員	<p>学校教育の場ということでちょっとお話をしたいなと思っていますが、先ほど、浅野委員の方から銚田市の実例のお話があって、私も学校教育で何ができるのかなと考えた際に、小学校の肋木にクライミングのウォールを取り付けて、それで楽しませたいというイメージでした。先ほどのお話の中で、それ小学校につけましたよ。そういう体験をしても、10年経っても、それがなかなか発展していかなかったというお話聞いて、あれ、じゃ、自分が考えていることが、そのようになるのかと思ひまして。何がそこでできなかったのか、足りなかったのは何なのかなって。今振り返ってみて、ちょっとお話をお聞きしたいなと思います。</p>
浅野委員	<p>まずですね、小学校の肋木に設置する壁ってなると、とても規模が小さくなってしまいます。1回2回やってみるっていうところまでは、普及としてはいいと思うのですが、その先に繋がらなかった。現場の小学校の先生も管理が難しく、マットを1回1回畳んで、休み時間も先生がいるところでしか登っちゃ駄目だよとか、その運用のところで難しく、使える子が限られている。今、10年間、小学校設置して経ちましたけど、銚田市内の小学校で唯一1校は、クラブ活動で2ヶ月に1回、外部講師を呼んでやっている学校がありますが、それでもクライミングの本当の面白さや上達していくみたいなのが見えなく、そこで終わってしまうというか、じゃあ続けてみようっていうところまではいかない</p>

	<p>そこで、鉾田市は考えて10年前から親子クライミング体験教室っていうのも夏休みにやっています。また、県の競技強化の方で、発掘プロジェクトを行い、ジュニアアスリート育成の中に、クライミングの方も手を挙げて、種目になっています。そちらの活動の方にも、いろんな市から発掘された子たちが来て、鉾田市を拠点に練習しているみたいな感じです。何が言いたいかというと、2,000万円を肋木に設置するクライミングウォールで満足しちゃっていいのかなっていう心配はありませんね。</p>
木村委員	<p>そのお金を、学校の肋木に設置するウォールにというわけではないですが、教育委員会にちょっと相談していきたいなと思っています。たつこのアリーナに行けばお金も80円かかる。そういうものも含めて、小中学校では、無料で体験できると、お父さんお母さん連れてってよ、一緒に行こうよ、そういうのが本当に市内でも普及されていいのかなと思います。また、今学校教育の中では、授業でサーキットトレーニングを取り入れ、そこでやっていききたいなというイメージはあります。話聞くともう港区あたりは、全小学校に全部設置していますと、以前、野口さんがおっしゃっていたのですが、龍ヶ崎も、まずは、市内の小中学校にそういうものを設置し、興味を持たせる、触れさせるっていうようなことをさせたいなっていう思いがありますね。しかし、今のお話を聞くと、どうかなっていうのもありますが。</p>
田畑会長	<p>やはり話を伺って、いかに若年層のところから興味を持たすかっていうところが、すごく大事なのかなというところと、スポーツは、様々な視点でとらえることができますので、体験することも非常に大事ではありますが、渡部さんであったりとか、野口さんのようなトップアスリートがスポーツをするということでもかなり普及効果に期待することもできるので、やはりイベントの開催であったり、大会誘致っていうのは必要になってくるのかなというところがあります。</p> <p>話の中でこのアクションプランにもありますように、このスポーツクライミングといわゆる産業との繋がりっていうところで、ここでは、食と新たなメニューの地域開発みたいところで、望月委員は、龍ヶ崎コロッケのところで、ご尽力されてきたという経験もある中で、こういった分野での活性化ってどういうお考えなのかっていう、ちょっとお話伺ってよろしいですか。</p>
望月委員	<p>国内大会・国際大会の誘致ができるのかを、渡部さんにお聞きしたいなと思います。また、自分は、観光物産協会の会長、コロッケクラブ龍ヶ崎の会長もしております。11月24日に全国コロッケフェスティバルなどのイベントの方でも、出させていただきますが、龍ヶ崎は観光のまちとなかなか皆さんに言われないうところがある。そのため、野口さんと榎崎さんがいるので、できれば活用させていただいて、観光とスポーツクライミングのまちを組み合わせればと思いますが、先ほど渡部委員と浅野委員と橘川委員のお話を聞くと、なかなかハードルは高いなとすごく感じております。</p> <p>龍ヶ崎でできることということで考えると、物産としてコロッケや、イベントはたくさんできるのかなと感じておりました。ぜひそういうふうな連携ができるといいなと感じております。また、コロッケは丸い形をしているので、コロッケのホールドですかね。ホールドをコロッケの形にいただいただけだと、すごい龍ヶ崎らしい差が出るのかなと思います。また、龍ヶ崎の強みとしてマスコットキャラクターのまいりゅうというものがいます。壁に、まいりゅうの絵でも書いていただいて、尻尾から昇っていくなどすれば、木村校長先生もお話したように、子どもたちが楽しく、登れるようになると思う。</p> <p>さらに、物産品としてそういうふうなウォール型の、饅頭や、どら焼きでもいいし、おせんべいでもいいし、甘納豆でもいいし、さらにコロッケもそういうウォール型のコロッケみたいのを作りたいなとも感じておるところであります。</p> <p>大会は、3年で呼べるのか、それを龍ヶ崎でできるのかちょっと聞きたいなと思います。</p>
渡部委員	<p>大会の誘致に関しては、自分は、出る側がメインなので、かなり詳しいとなると、協会の方に聞いていただくのが正確だと思いますが、知っている範囲で言いますと、誘致は可能だと思います。それは、場所がないと無理ですが、壁が準備できれば誘致は可能です。</p>

	<p>ルールでいきますと、例えばボルダリングに関しては、国内大会の観客動員が、3,000人程度人数が入る場所ではないと、開催できないというルールがあると思いますので、既存の施設だと、そもそも人が入らないと思いますね。もし人が入ったとしても、体育館のような床ですと、重量に耐えられない。仮設の壁がけっこう重いので、おそらく屋外開催になると思います。</p> <p>リードというロープを使って、命綱として使用する競技に関しては、そもそも高さの問題っていうのがありますので、屋内開催は無理なのかなと。仮設で屋根をつけるのか。うまく既存の施設の基礎に建てるのか。スピードも同様やはり高さが必要ですので、17mほどないと競技の遂行ができません。3種目しようしますと、その競技場プラス、ウォームアップエリアや、クライミングの特性上アイソレーションと言われる隔離エリアというのが必要ですので、そうしますとかなりの範囲が必要となる。大会によっては、アメリカでベールというスキー場は、アイソレーション隔離エリアとアップエリアをゲレンデタクシーで移動して、選手がピストン輸送されるっていう前例もあります。必ずしもその競技エリアの裏にないといけないうわけではないので、そこは逆に柔軟な考え方によっては、特色を逆に出せるのかなと思う。例えば、関東鉄道を使ってみるとか、何でもいいと思いますが、そこはやりようによってはいけると思います。</p> <p>国際大会3種やるのが難しいのであれば、ボルダーの大会なのかリード大会なのかスピードの大会なのか、パラクライミングなのか、もしくはそのやるタイミングをずらすなど、検討の余地はあると思います。</p> <p>予算面に関してはかなりそこも難しい問題はあると思いますけど、正直お金は集めることは可能だと思うので、大会スポンサーなどを募れば実現可能かと思いますが、来年のワールドカップはもう開催場所決まっていますので、再来年のワールドカップ、国際大会、もしくはワールドカップまでではないコンチネンタル大会、クライミング新興国向けの大会っていうのもありますので、そこは日本=ワールドカップっていう考え方を捨てて、もっと敷居の低い国際大会を開催するっていうのも個人的には、かなり賛成だと思っています。そもそもワールドカップにしないといけない理由はないと思いますので、それでも、世界中から選手は来ます。自然の岩にオフシーズンに登りに来るクライマーも世界中いますし、時期もそのワールドカップと被らなければ、かなり柔軟な時期にできるのかなと思う。やはり、台風の時期に日本とかでは競技したくないですよ。台風直撃したら、そもそも競技できませんし、イベントもすべてキャンセルになってしまいますので、そこは現実的な時期とかも逆算して考えていけばいいかなと。</p> <p>ホールドに関しては、コロッケのようなホールドとか作るのは可能です。例えば、まいりゅうのような色と造形は、ホールドのルールがないので、イベント等で使う分には、壊れなければ問題ない。また、壁については、ホームセンターでコンパネ買ってきて、厚み出して、色塗って、絵の上手い人に書いてもらってとかでも全然作れなくはないですが、あまり造詣を細かくすると、折れたりするので、強度があれば問題ないと思います。</p>
望月委員	<p>ありがとうございます。ぜひ、小学校・中学校でホールドに絵を書き、それを登るとなると、楽しくなるのかなと感じております。</p> <p>浅野委員、茨城県山岳連盟で主催するようなそういうクライミングの大会などは、龍ヶ崎で開催ができるのですか。</p>
浅野委員	<p>まず、茨城県山岳連盟で主催している大会は、国体の県予選、坂場杯と言って前々会長の名前のついているリードの大会、ボルダリングの大会、大子町である大子町長杯の年4回あります。まず壁がないと大会はできないので、鉾田市にある壁であれば、この規模の大会が開催でき、4分の3程度やっているような感じです。壁をつくる計画がないのであれば、たつのこアリーナにある体験用の壁では、大会はできないっていうような形ですね。</p> <p>ちょっと大会の話で、ついでですが、国内大会、国際大会のお話がこちらの資料にも入っておりましたので、ちょっと説明させていただきますと、JMSCA 日本山岳スポーツクライミング協会の全国大会を第1回から鉾田市で誘致して、第4回まで、鉾田市で開催しております。そちらは、国体の際に立派な施設を廃校になった小学</p>

	<p>校の体育館に作ったので、そちらを活用したいという鉾田市の意向と、山岳連盟の方で誘致頑張りました、4回まで継続している。5回目、来年はどこでやるのかというはまだ決まってないです。今年で言うと、ボルダリングに関しては鉾田市開催、リードに関しては愛媛県の西条で開催し、東日本両方で種目別に開催しようという動きになっています。どちらも常設の施設があって、民間ではなくて、公共の施設で、会場費が安く使えてっていうところで、誘致をしています。</p> <p>国際大会に関してですが、日本山岳スポーツクライミング協会と、IFSC という、国際団体の方が共催して、お金を折半して、開催するような形になっていて、もちろん開催地としても負担がありますが、過去の歴史を振り返ってみますと、オリンピックに向けて日本の業界はかなり国際大会を誘致していました。毎年、東京の八王子にて屋内仮設壁で大会を行っている。オリンピックの前が一番大事な世界選手権というのを日本でやっています。その際の赤字がすごい額で、そこから、ちょっと国際大会がなく、2022年に盛岡でワールドカップ開催。2023年に八王子でまたワールドカップ開催。2024年の開催は見込まれてないです。それは、お金がなく、日本山岳スポーツクライミング協会の問題になっています。</p>
望月委員	<p>大会を行うことは、すごくハードルが高いと感じておりますが、何か龍ヶ崎でできるような大会や、茨城県山岳連盟さん・野口さんのご協力をいただいて何かできないかと思っておりますがいかがですか。</p>
渡部委員	<p>経験から言いますと、クライミングはその抱き合わせのイベントではかなり集客が見込めるといふフィーリングがあります。それは例えば、既存の運動会や、町のイベント、オリンピック前であればオリンピック1年前イベントみたいなにも出展したことがあります。クライミングウォールがあれば、子供はもう無限に上っている。セティングであったり、その規模であったり、その壁を持っているポテンシャルにもよりますが、横8m弱、高さはどうにでもなる。子供が登るだけであれば、横移動にすれば安全で、マットも分厚くなくていけますし、コンパネ大体1800ぐらいだと思うので、1800で問題ない。もう1枚重ねると、大人ができるような3.6、4.2という競技レベルの高さの壁も作れます。そのような壁を設置することによって、未就学児ができるような課題から、年配の方ができるような難易度、若い方が満足できるような難易度まで調整ができる。コスト面や指導者という面でもハードルが低いと思っておりますので、とにかく触れ合う回数を増やすことが大事だと思うので、そこが現実的かなと思っております。</p>
望月委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>国際大会や国内大会ジャパンカップのような大きい大会は、少し難しいのかなと感じているので、龍ヶ崎でできる大会を開催することをまず目標に立てる、また、体験会やイベントを何度か3年間できるといいなとすごく感じております。</p> <p>流通経済大学が龍ヶ崎にあるので、スポーツクライミングでどのような活動されているのかちょっと聞かせてもらえればと思います。</p>
田畑会長	<p>正直言いますと全くしてないですね。ですが、やっぱりこういった機運の醸成を行うときには、大学もあるっていうところは、すごくメリットでもあると思うので、その施設を活用することや、また選手の育成の部分でも、スポーツクライミングを目指す学生が本学に入ってきて、トップアスリートとしてっていうところでもあると思うので、こういった計画の中でもやはり大学は非常に大きなステークホルダーでもあると思う。ですが現状では何もしてないということになります。</p> <p>ちょっとあの渡部さんにお伺いしたいのは、世界大会含め、基本的ないわゆる全国大会と言われるようなスポーツクライミングシーズンっていうのは、いつになるのか。</p>
渡部委員	<p>世界大会基準でいきますと、最終戦が時期によって違いますが、毎年4月からワールドカップボルダラーが始まりまして、そこからリードスピードとなる。</p> <p>例えばオリンピックがあると、11月ぐらいまで、ワールドカップがずれ込んだりしますし、2年に1度開催される世界選手権があるかないかでも変わってきます。その他コンチネンタル大会、アジア選手権など、選手によってシーズンの終わりはかなり違うのと、忙しいときにはもうほぼ国内にいない。日本代表になれないと、国際大会は関係ないので、国体、国内大会ですと、年度が変わる前の1月末か</p>

	<p>2月、3月行くまでに、すべての国内選考大会、ジャパンカップと言われる大会が終了するので、そこがまずは1つのスタート地点かなと思う。おそらくですが、結局山岳関係は、今までほとんどが教員の方々がされてきていて、学校行事にかぶらない時期にクライミングの大会をしているっていう歴史がありますので、例えば夏休みや高校総体にかぶらない時期のように、本当何もない時期に、高校生大会・ユースの大会が開かれる傾向がありますね。</p> <p>ただ、何度も言っている通り、施設がないとできないという事実と、あと天候に左右される可能性が屋外だとありますので、調整しないといけなかなと思います。</p>
田畑会長	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>ちょっと話が多岐にわたってきてしまっているところありますけれども、委員の皆様方いかがでしょうか。</p>
後藤委員	<p>ちょっとせっかく参加させていただきましたので、話させていただきますが、審議会に応募するときに、スポーツクライミングありきということじゃなくて、市が盛り上がりてもらいたい。それが、極端に言えばスポーツクライミングでもコロケでも何でもいい。スポーツクライミングも、盛り上がり施策のまちおこし施策の1つとしてとらえて、予算はそんなにないのであれば、極端に言ったら0円で何ができるかを特に市民レベルだと考えなくちゃいけないと思う。</p> <p>自分は、アニメも好きで、キャンプの関係で「ゆるキャン△」っていうアニメがあるが、山梨県の身延が舞台となっています。ただし、身延町は何もやってないです。ただ、女子高生がキャンプしているアニメですが、舞台が身延町中心として山梨県静岡県と、それが1つ1つ聖地化になっています。また、「いわかける！」っていうアニメをご存じの方もいると思いますが、特定の場所、特定の高校がちょっとできないような形ですから、そういう自治体や町が、無理してやらなくても聖地化になっていて、特化したファンが遊びに来るところが、本当は継続的、持続的に続いていくまちおこし策になるのではないかと思っている。ですから、例えば、大きい大会だけじゃなくて、先ほど渡部委員からも話ありましたけど、龍ヶ崎カップが予算の範囲でできるのであれば、それはそれ。学校で設置できるもの、または空き地の部分で、限られた予算でできるものはそれだけでやっていくと。</p> <p>あと、まちおこしアンケートで、圧倒的に駅前が寂しいという意見があり、先ほどのまいりゅうの絵を書いたクライミングのボードを、芸大の学生に来てもらい、ペンキ代だけ払って、駅前にそういうオブジェを作ってもらおうと。そういうもので、まず、お金を使わなくても、自分たち市民の意識レベル上げる。クライミングの意識を上げ、他市の人たちに、龍ヶ崎っていうところがそんなことをやっているのか。じゃ、ちょっと遊びに行ってみようかと、そういうふうな形で、この施策を盛り上げていけたらいいのではないか。</p> <p>予算が何十億もあるっていうのであれば、何でもやれる。素人が考えなくてプロだけ集めてやればいい。予算がないのであれば、そういうレベルで考えてった方がいいと思う。</p>
田畑会長	<p>様々な視点でアクションプランがありますけども、今日1日話してきて、何ができるのかっていうところをやっぱり絞りながら、計画を作っていく必要があるのかなというところで感じた次第です。他の委員の方、何かご意見ありましたら、いかがでしょうか。</p>
浅野委員	<p>昨日メールで、ちょっと事務局に質問というか、ワークショップの案内っていうのが来たのですが、すいません。</p>
事務局	<p>ワークショップについては、一応、基本構想の業務委託のなかで、審議会以外の団体とか企業とか、そういったところにも、ちょっとお声掛けをさせていただいて、7年度以降、この事業に携わっていただけるような企業などを挙げさせていただいて、ビジョンの共有とか、アイデア出しみたいなものを行い、それを構想にも、参考にさせていただけるような意見を伺いたいと思っていて、企画しようかと思っています。</p>
浅野委員	<p>第2回の審議会で揉む話になるということではない。</p>
事務局	<p>ワークショップは審議会とは別ですけども、基本構想の中では、その意見も参考</p>

	にしたいと思います。
浅野委員	ワークショップの意見を取り込みつつ書いてあったので、何かこれは参加するものなのかなという質問です。
事務局	本事業を進めるうえでは、当然 7 年度以降も茨城県山岳連盟さんには協力をいただきながら進めないといけない事業だと思っていますので、そういった関係性も含めまして、お声掛けをさせていただきました。
浅野委員	なるほど、わかりました。
事務局	<p>先ほど後藤委員の話からもありました通り、この基本構想については、スポーツクライミングの振興だけというわけではなくて、いかに龍ヶ崎市がスポーツクライミングのまちとしてこう盛り上がっていくのかというところを作っていくものです。</p> <p>そのためには先ほどお話しもありましたけども、皆さんと連携をしていかなければいけないというところで、その連携を作っていくというところのまずはきっかけとしても、このワークショップっていうのは位置付けております。今ここで掲げられているアクションは本当に多岐にわたるステークホルダーの皆さんにご協力いただかなければ実現できないことだと思います。また、民間企業の方々、そういった方々にもお声掛けをさせていただいて、実現に向けて、みんなで機運を高めていきましょうということをしていただくと予定で。</p> <p>その中にはスポーツクライミングのまちってどんなまちかなという、それぞれが持たれている思い、課題みたいなことを共有する、そのセッションも設けさせていただいておりますので、そういったものをこのスポーツクライミングっていうのをきっかけにして、解決できるような、そんな動きが作っていけるといいのかなというふうに思っております。</p>
浅野委員	あともう 1 点、実は流通経済大学のスポーツ健康科学部の 3 年生の学生で、去年の国体で 8 位に入賞している選手がおりまして、水戸に住んでいて、電車で通っていますが、龍ヶ崎市在住ではないですが、流通経済大学に通っている学生で、今年も国体の茨城県代表に選ばれている選手がいるので、そういった学生とか絡んでいけたらよりいいのかなというのはちょっと思いました。
田畑会長	<p>うちの学生の情報知らなくてすいませんでした。どうもありがとうございます。ちょっと予定をしていた時刻を超過している部分ありますが、最後に 1 問ぐらい質問を受けたいと思いますけどいかがでしょうか。</p> <p>本日は櫻井さんとかお見えになっていますけど、今回の会議を受けて何かご意見とかありましたらお願いします。</p>
櫻井委員	<p>何度も出ている話ですが、やはり私も今日会議に参加させていただいて感じたのは、3 年で考えているものがちょっと壮大過ぎたかなというふうには感じました。3 年後にこけら落としイベントの実施ができるぐらいでもいいのかなと。それはやっぱり、皆さんの意見が出ていた通り、場所もなければとかそういう問題がたくさんありましたので、あと予算の問題ももちろんありますし、限られた予算の中で、何ができるか、もうちょっと小さく見てもいいのかなと。国内大会とか国際大会っていうのはまた 10 年後ぐらいでももちろんいいと思う。龍ヶ崎で何ができるか、どのようなことをして盛り上げていっていかっていくのが、まずみんな同じ思いで方向を向いていかないと、いろんな意見が出てくるのはもちろんいいと思うが、同じ思いで動かないと、ぶれていってしまうと思いますので、まず市の方たちがどういうふうな思いで、3 年後にどうしたいかというのは、もっともうちょっと明確にさせていただいて、またこの会があれば、もっと良くなっていくのではないかなというふうには今日感じました。</p>
田畑会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、ちょっと時間の方も超過している関係もありますので、意見を皆さんから承った形で、いただいた意見については集約するような形で次の審議会で、またお諮りしていきたいというふうに思います。</p> <p>そうしましたら以上をもちまして議事を終了させていただきたいと思います。皆様方の円滑な進行についてご協力いただきまして、誠にありがとうございました。それでは、進行を事務局の方にお返しいたします。</p>

事務局	<p>貴重なご意見、どうもありがとうございました。</p> <p>いろいろ参考にさせていただきまして、次の会議の方に、反映していきたいと思 います。また、今年度についても、この構想を作りながらですね、イベントの開催 について協議をしまして、公表できる段階になったら公表させていただきます ので、どうぞご協力の方お願いします。</p> <p>今回の議事以外で、皆様から何かご質問等があれば、お願いします。もしなけれ ば個別にまた連絡取っていただければと思います。</p> <p>次回の会議についてのお知らせでございます。次回の会議は、12月24日13 時30分から開催させていただきたいと思ます。議題等の資料については後日改 めてメールをお願いします。</p> <p>お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。長時間にわた り、ご審議いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは本日の会議は以上となります。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
<p>令和6年11月15日に行われた審議会の内容については、上記のとおり相違ありません。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">会 長 _____</p> <p style="text-align: right;">委 員 _____</p> <p style="text-align: right;">委 員 _____</p>	